

先進地視察（川口市・中野区）の感想等

普段は居住地や川越市の庁舎を見る機会が多かったので気づかなかったが、先進地の庁舎の作り方が、当然ではあるかもしれないが、一定の考え方を持って進められていることに感銘を受けた。また同時に、特に中野区の取り組みは、川越市でこれらを実施するためにはかなりの覚悟が必要であるとも感じた。

中野区の先進性には目を見張るものがありました。

ただ着実に実行して成果を出して行くためにはほぼ専属に近い推進者と後ろ盾の存在が必須であり、そうした人材を一定期間配置することも肝要であると感じました。

これは、新しいことを始める際には、どんなことでも必ず通るハードルです。

また区民への開放スペースについても、管理運営主体を明確にする必要性を感じました。

川口市の事例については、近年の設計（意匠）トレンドとしての大階段（ステージ階段）など目を惹きましたが、設計による錯視に起因する事故（踏み外しによる転倒・転落）が各地で問題にもなっており、検討段階で留意すべきポイントであると感じました。

また、防災面で立地の要素と設備機器の据え付け位置は非常に重要と感じました。

・川口市役所は環境面、防災面で優れた庁舎。川口駅前の「キュ・ポラ川口」の4階に行政センターがあるが、駅から1.2km離れたところに第一と第二庁舎が整備された。待合スペースは広々としているが、吹き抜け・ガラス張りなどの大きな空間はエネルギーコストの増える懸念がある。建物は、道路斜線により植栽等が配置され癒しの空間を設けているが、シンプルで手入れが少なく管理面などライフサイクルコストを考えた建物が重要。第一・第二庁舎に分割されているが、市民や職員にとっては建物間の移動に不便さを感じているのでは。

・中野区役所は、中野駅から550m離れたところに位置しており、職員や市民は自転車で来る人が多い。これから建てる庁舎は、DXや環境、防災性能への配慮はもちろんですが、利便性のよい場所に市役所を配置し

て、市役所が休みの日でも市民が利用できるようなイベント交流スペース、カフェ、展示スペースなど、賑わい創出の一助となるようなスペースを設けることを検討すべき。

職員の働き方が多様化しているが、職員のコミュニケーション能力向上と信頼関係の構築・市民や他機関との連携が大切にされるような職場環境であって欲しい。その上でフリーアドレスはデメリットもあり、複数の自治体の職員の生の声を把握すること。実施する場合にはひと工夫必要と考える。

川口市・中野区の視察を通じて、新庁舎は単に建物を新しくするだけでなく、市民サービスの分かりやすさ、窓口動線、防災拠点としての機能、職員の働きやすさを総合的に考える必要があると感じました。特に、市民が迷わず利用できる案内・窓口配置や、相談しやすい空間づくりは参考になりました。一方で、川越市は歴史的な街並みや観光地としての特性もあるため、他自治体の事例をそのまま取り入れるのではなく、川越に合う形で取捨選択することが重要だと思います。

川口市：20年ぐらいの違いがあると思いました。特に、環境に配慮されて、シビック・キューポラや自然通風など国立競技場を思わせる配慮と感じました。人の動線も含めて無駄の削減で生み出されるものが、皆が今後、より、工夫できる庁舎になるんだろうと将来性を感じました。

中野区：発想の違いを目の当たりにして、すごい一言でした。都内自治体庁舎初 ZEB Ready 認証など模範となる建築技術の高さと発想の豊かさを感じました。人口は川越と変わらないのに、面積が小さく、駅に近く、川越で考える利便性とはまた違うのかなあと感じました。

両市とも、らしさを追求しながら、市民や職員の意見を十分聴取したと感じられました。